

病院長	地域医療連携部長	看護部長	事務部長	医療連携室課長

2022年度 第2回地域医療支援運営委員会議事録

日時 2022年8月25日(木) 14:00~15:00

場所 藤田医科大学岡崎医療センター大会議室2 / ハイブリッド形式

司会 曾根将之

出席者 【院外】(Zoom) 升川浩子、高村俊史、片岡博喜、渡部真法

(来訪) 野本功

【院内】鈴木克侍、有嶋拓郎、片方容子(代理)、濱野和治、曾根将之

欠席者 【院外】金澤一徳、鈴木勝久

(敬称略)

1. 開会

・委員挨拶

地域連携に役立てるよう尽力する。不慣れなためご指導いただくことがあると思う。よろしくをお願いしたい。(升川)

・病院長より挨拶

岡崎市及び幸田町の救急患者は全て受け入れる体制で、400床のうち420名の入院患者数を受入れている。病床満床で救急車を不応需してしまう可能性もあるが、ご理解いただきたい。2022年12月に地域医療支援病院の承認予定であるため、今後も連携を深めて地域医療に貢献していきたい。(鈴木)

2. 当院からの報告(資料①)

・資料①の通り。

病院紹介、前方/後方連携の実績、救急医療提供の実績、地域の医療従事者に対する研修活動、当院からのお知らせを報告した。(有嶋)

3. 各委員からご意見ご要望等

【岡崎市医師会理事 升川浩子】

- ・なでしこ内科クリニックは岡崎市北部にあるが、喜んで患者が岡崎医療センターへ行っている。ただし、遠方でバスの乗り継ぎが難しいと聞くことがあるため、アクセス方法の改善をしていただけるとありがたい。

【岡崎歯科医師会副会長 渡部真法】

- ・地域連携登録医制度の案内をいただき感謝している。岡崎歯科医師会会員にも順次周知した。

【岡崎薬剤師会会長 高村俊史】

- ・在宅患者の処方に関して連携を深めていきたい。また、岡崎医療センター主催の地域医療支援研修会は大変勉強になるため参加している。岡崎薬剤師会会員にも参加を促している。

【岡崎市保健所所長 片岡博喜】

・紹介率が着実に上昇しているため、今後も紹介率が上昇できるようお願いしたい。共同利用実績は寂しい数値である。今後開放型病床の稼働率等上げていただきたい。7月の救急車搬送件数が多い理由は、新型コロナウイルスで搬送が難しかった患者を引き受けていただいたためか教えていただきたい。

→紹介率及び共同利用率は上昇できるよう努める。(曾根)

→救急車搬送数は、年間7000件の目標であったが、8000件を超えるペースで推移している。他の医療圏で新型コロナウイルスにより受け入れが難しい患者が岡崎医療センターへ搬送され、救急車搬送数が上昇した。(有嶋)

【岡崎学区柱六丁目総代会副会長 野本功】

・岡崎医療センターへ救急車搬送されているのを頻繁に目撃しており、救急車搬送件数が多いことを身近に感じている。職員の皆様は大変であると思うが、地域住民のためにも引き続きよろしくをお願いしたい。

4. 閉会

・鈴木より閉会の挨拶

前委員三治様より厳しい意見をいただくこともあったため、升川様にも同様に厳しい意見をいただくと幸いである。2022年度第1回地域医療支援運営委員会で岡崎歯科医師会へ登録医制度の案内ができていなかったことを知り早急に展開させていただいた。今後も提携を強めていきたい。また、岡崎薬剤師会とも在宅処方について連携を進めていきたい。岡崎医療センターが開院した一番の理由は、岡崎市南部東医療圏の救急車が年間16,000台うち8,000台しか岡崎市内で受け入れできなかったため、岡崎市内で救急車を受け入れできるよう開院した。岡崎医療センターは、2020年度約5,000台受入、2021年度約6,000台受入、今年度約8,000台受入見込みとなっている。年間16,000台の救急車を岡崎市内で受け入れる体制が予定より早期に達成できる可能性があり嬉しく思う。ただし、救急科医師が不足しており、全て受け入れることは難しいため、一日でも早く救急車の不応需件数を無くせる体制を構築していきたい。また、新型コロナウイルスが収束するのは5年程かかると推測しているため、新型コロナウイルスで困ることがあれば岡崎医療センターが対応していきたい。7、8月に新型コロナウイルスの第7波があり、病床稼働率が100%を超え、救急患者も増加しているが、新型コロナウイルス流行時でも受け入れできるよう努力して、地域に貢献したいと考えている。(鈴木)

・次回以降の開催予定日は以下の通り。

第3回地域医療支援運営委員会 2022年11月24日(木) 14:00~15:00

第4回地域医療支援運営委員会 2023年2月16日(木) 14:00~15:00

以上

文責：市川、浅野